

平成 25(2013)年 12 月 21 日(土) 午後 開催

第 36 回 美術科教育学会 奈良大会 記念プレ学会

＜研究発表会 in Nara＞へのお誘い (第二次案内)

テーマ：美術教育における「遊び」概念と指導

－ 遊びと学び、内発的動機づけ、造形の基本、芸術概念の拡張、共通事項 －

ながもりもととき
美術科教育学会（代表理事 和歌山大学教授 永守基樹, <http://www.artedu.jp/>）は、美術教育に関する実践検証や研究を進めている全国規模の学会で、日本学術会議協力学術研究団体にも登録され、大学美術教育学会、日本美術教育学会とは、連携協力に関する協議会「造形芸術教育協議会」を結成（2010.2）しています。この度、第36回美術科教育学会 奈良大会(2014.3.28-3.30)開催に向けて、記念プレ学会＜研究発表会in Nara＞を開催致します。美術教育に関心のある方は、どなたでも(学会員以外の方も大歓迎)御自由に参加ください。当日は、発表内容をまとめた研究冊子をお配りいたしますが、この冊子代が500円の予定です。

テーマについて

昭和 52(1977)年 7 月に改訂告示された文部省小学校学習指導要領図画工作編低学年に初めて登場した「造形遊び」は、その後の2度の指導要領改訂で中学年、高学年まで拡大され、現在に至る。しかし、美術教育では、材料や用具との関わりがあり、子どもの主体性を重んじる表現系教科という特性から、学習指導要領における「造形遊び」導入以前から「遊び」的な活動を追究した教育実践者は存在した。教育実践者・研究者として活躍された乾 一雄氏(1920-1992)もそのうちの一人であったといえる。

このプレ学会第Ⅰ部では、宇田が乾氏の御業績にふれるとともに、氏の薫陶を受け、独自の実践を長年にわたって行なってきた黒岩 和子氏へのインタビューを行なう。乾氏の＜「遊び」の原理にもとづく造形表現実現の過程＞(4 頁 図 1)は、**造形の基本の定着**も意識した子どもの実態に基づいたきめ細やかな学習過程モデルとなっており、その「遊び」本来の姿に基づいた構想は、内発的動機づけ(intrinsic motivation)や自己効力感(self-efficacy)などの現在の学習理論における鍵概念にも通じる内容を含んでいる。乾実践の集大成とも言える大阪市立大開小学校研究の研究同人であった黒岩氏には、大開小の実像とその後の自らの実践の要諦を語っていただく予定である。

第Ⅱ部では、美術教育の世界で多義的に遣われている「遊び」概念を俯瞰するために実践発表をもつ。斯界における「遊び」概念の一つは、＜「面白そう、やってみたい」という気持ち(＝内発的な動機づけ、自己目的的 autotelic な活動、フロー体験 by M.チクセントミハイ)を活かした実践<色水遊び、うつし遊び、見立て遊びなど>であり、もう一つは、**芸術概念の拡散現象**の中で、従来の枠組みより広がった柔軟な内容から造形活動を導きだしていく実践<環境芸術、空間ディスプレイ、ファッション・ショー、メディア・アート、おもしろグッズ、アート・イベントなど>である。子どもの成長・発達段階の関係から、前者は小学校で、後者は中学校高等学校で、それぞれ行なわれることが多い。今回は、團上氏と長友氏の実践発表をふまえて、小中の「遊び」概念の整理を試みる。また、学習指導要領に新設された「**共通事項**」は、美術教育における「遊びと学び」にどう活かしたらよいのか、文科行政にも通じる水島氏に発表いただくことにする。

最後は、上記発表者、指定質問者・討論者、フロアー参加者を交えて、子どもを幸せにする造形的な「**遊びと学び**」について多角的に討論したいと考えている。

奈良大会 記念プレ学会 コーディネーター 奈良教育大学 うだ ひでし 宇田 秀士

1, 日時 平成 25(2013)年 12 月 21 日(土) 午後 12 : 30~17 : 30

2, 会場 〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学
附属教育実践総合センター 多目的ホール, 交通アクセスについては, 5-6 頁目を参照。

3, 主催 美術科教育学会

4, 内容

○12 : 00-12 : 30 受付

○12 : 30-12 : 40 はじめの挨拶

けいとく みのる
花 篤 實氏(美術科教育学会元代表理事・大阪教育大学名誉教授)

諸連絡

第Ⅰ部 12 : 45-14 : 00 [ロング・インタビュー]この人にきけ！！

・全体の趣旨説明, 乾 一雄氏(1920-1992)の「遊び」を活かした美術教育構想と実践の特徴
宇田 秀士 (奈良教育大学)

・乾 一雄氏の構想と自らの美術教育実践(仮題)

黒岩 和子氏 (元大阪国際大学短期大学部教授, 元大阪市立金塚小学校校長)

<休憩 5分>

第Ⅱ部 14 : 05-17 : 20 [研究発表会]と[討議会]

・14 : 05-14 : 10 発表者の設定と内容

宇田 秀士

・14 : 15-14 : 35 小学校の現場から- 「見て！」と言える造形活動をめざして(仮題)

だんがみ あきら
團上 哲氏(奈良県北葛城郡河合町立河合第二小学校)

質疑応答 14 : 35-14 : 45

・14 : 50-15 : 10 中学校の現場から-ランド・アート(land art)の実践から(仮題)

長友 紀子氏(奈良教育大学附属中学校)

質疑応答 15 : 10-15 : 20

・15 : 25-15 : 45 実践を支援する「共通事項を活かした美術教育」(仮題)

水島 尚喜氏 (聖心女子大学)

質疑応答 15 : 45-15 : 55

<休憩 10分 フロアーから質問・意見受付>

○16 : 05-17 : 20 発表に対する質問・意見交換と参加者全体での討議会

指定質問者・討論者 佐藤 賢司氏(大阪教育大学 准教授)

西尾 正寛氏(畿央大学 教授)

しんや
阪口 信哉氏(奈良県葛城市立磐城小学校 教頭)

○17 : 20-17 : 30 終わりの挨拶 熊野 恵次氏(奈良県斑鳩西幼稚園長・前奈良美研会長)

第 36 回 美術科教育学会 奈良大会(2014.3.28-30)の案内

プレ学会運営委員会委員(サポートスタッフ) 永守基樹(和歌山大学), 丁子かおる(和歌山大学),
竹内晋平(奈良教育大学)

<終了後, 希望者による交流懇親会をもつ予定>

研究発表者、指定質問者・討論者 紹介

黒岩 和子 (KUROIWA, Kazuko) 元大阪国際大学短期大学部教授 1947年7月兵庫県生まれ
<専門> 美術科教育学(造形表現における基礎・基本的なことから、題材・材料・用具研究) <職歴等> 大阪市立小学校教諭(曾根崎小・大開小・関目小)、大阪市立海老江西小学校教頭、大阪市教育委員会主任指導主事、大阪市立小学校校長(鷺洲小・金塚小)、大阪国際大学短期大学部教授・同嘱託教授を経て神戸海星女子学院大学・平安女学院大学非常勤講師。大阪児童美術研究会研究局長、全大阪幼少年美術振興会理事、日本教育美術研究機構指導講師、サクラアートサロン大阪講師、大阪市社会教育委員 <主要著書／論文> 「豊かな発想を持ち表現する心を育む造形活動の指導を求めて」『大阪児童美術研究会研究紀要』63,1994. 「子どもがいぎいと表現する造形活動」日動火災教育振興基金応募論文,2001. 「図画工作科指導計画」(共著)『大阪市教育研究会指導計画』,2002. 「豊かな感性をはぐくむ美術館と連携を図った鑑賞学習」東京海上日動教育振興基金応募論文,2007. 『好きやねん！図画工作の時間』(共著),日本文教出版,2009. <講演> 「つくりだす喜びと、基礎・基本的なことから」岡山県図画工作部「授業力アップ研修会」2009. 「子どもの心を育てる絵画表現」大阪市教育センター幼児教育研修会,2012.

宇田 秀士 (UDA, Hideshi) 奈良教育大学教育学部 美術教育講座 教授 1963年7月長野県生まれ
<専門> 美術科教育学(題材・教材開発を中心とした授業研究、近代日本美術教育実践史研究) <職歴等> 大阪府泉南郡熊取町立中学校教諭、大阪教育大学附属天王寺中学校・同高等学校天王寺校舎教諭、奈良教育大学助教授・准教授を経て現職 「第32回 InSEA 国際美術教育学会世界大会 2008 in 大阪」組織委員会研究局 副局長、日本教育美術連盟評議員、同連盟主催造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会分科会助言者、美術科教育学会会員(2013年4月より副代表理事(総務担当／本部事務局長)) <主要著書／論文> 『衝撃的美術教育のすすめ』三晃書房, 1997. 『美術教育の課題と展望』建帛社, 2000. 「美術教育実践における教師の<意識・規範・文化>」『美術科教育学会誌』22, 2001. 『美術教育概論改訂版』三晃書房, 2009. 『日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書』ABS 出版,2009. 『美術科教育の基礎知識 四訂版』建帛社, 2010.

團上 哲 (DANGAMI, Akira) 奈良県北葛城郡河合町立河合第二小学校教諭 1964年9月大阪府生まれ
<研究テーマ> 「生きがい」につながる造形活動の研究 <職歴等> 奈良県野迫川村立野川小学校教諭、広陵町立広陵西小学校教諭、広陵町立真美ヶ丘第二小学校教諭を経て現職、奈良美研編集部 副部長 <主要著書／論文> 「マンガは子供の姿—あるマンガ少年の軌跡—」『美育文化』Vol.38, No.8, 美育文化協会, 1988. 「おかしなおかしな家をつくろう—みんなの家、ジャングルジムの変身—」『実践図画工作科の授業第1巻 造形遊び (低学年)』同朋舎 1991. 「こんなことも表せるマンガの楽しさ」『美育文化』Vol.49, No.8, 美育文化協会, 1999. 「私が失敗から学んだこと」『美育文化』Vol.50, No.5, 美育文化協会, 2000.

長友 紀子 (NAGATOMO, Noriko) 奈良教育大学附属中学校美術科教諭 1975年7月京都府生まれ
<職歴等> 埼玉県川口市立領家中学校教諭を経て、現職。 <受賞歴／展覧会> 2005年 第18回美浜美術展 入選、2006年 上野の森美術館大賞展 彫刻の森美術館賞、2008年 若き画家たちからのメッセージ展 入賞、2008/2009年 おばまビエンナーレ 優秀賞、2009/2008年 Art Karlsruhe(アートフェア・カールスルーエ ドイツ)、2010年 Step 09(アートフェア・ミラノ イタリア)、2010/2011年 作家の視点 2010/2011 上野の森美術館 東京、2011年 VISUAL SENSATION vol.4 Gallery Den mym 京都・南山城村。 <主要論文> 「モノトピーを用いた中学校美術科の実践」『奈良教育大学教育実践開発センター研究紀要』22, 2013. 「創造性を育む中学校美術科教育の形を探る—ランドアートを通じて—」『奈良教育大学附属中学校 研究紀要』41, 2012.

水島 尚喜 (MIZUSHIMA, Naoki) 聖心女子大学文学部教育学科教授 1957年12月富山県生まれ
<専門> 初等及び中等美術教育学。ナショナル・カリキュラムの内容と領域の比較研究。美術教育のカリキュラム開発。 <職歴等> 東京学芸大学教育学部附属竹早小学校文部教官教諭、山形大学教育学部助教授等を経て現職。小学校学習指導要領及び解説書図画工作編作成協力者、文部科学省学習指導要領改善協力者(中学校美術)等を歴任。美術科教育学会会員(2013年4月より副代表理事(研究担当／学会誌編集委員会 委員長)) <主要著書／論文>

『新版造形教育実践全集』日本教育図書センター、2001. 『図画工作・美術教育研究 第3版』教育出版、2010.

佐藤 賢司 (SATO, Kenji) 大阪教育大学美術教育講座 准教授、1966年2月岩手県生まれ

<専門>美術教育・工芸・工芸教育(実践的造形思考を基にした理論研究、制作研究) <職歴等>岩手大学教務補佐員、新潟県立高校講師、上越教育大学助手、岩手大学非常勤講師、大阪教育大学講師・助教授を経て現職、日本テキスタイルカウンスル理事、美術科教育学会理事等 <主要著書/論文>『図工・美術の実技ベーシックス(DVD)』美術出版サービスセンター、2013. 『美術科教育の基礎知識(分担)』、建帛社、2010. 『美術教育概論(編著)』日本文教出版、2009. 「工芸概念の再考と美術教育(I〜X)」、『美術科研究』『上越教育大学紀要』、1997〜2010. 他 <主要展覧会等>9th Asia Fiber Art Exhibition & Symposium(2012 韓国)、SMALL SIZE WORKS ;Fiber Art from Asia and Europe(2012 リトアニア)、THE NATURE SPIRIT : CONTEMPORARY JAPANESE TEXTILE ART(2011 スペイン)、8th Asia Fiber Art Exhibition(2011 マレーシア)他

西尾 正寛 (NISHIO Masahiro) 畿央大学教育学部 現代教育学科 教授、1961年4月大阪府生まれ

<専門>美術科教育学(小学校現場における教科書教材活用のあり方、地域素材を活用した造形表現・図画工作科の教材開発) <職歴等>大阪府堺市立第三中学校教諭、大阪教育大学附属平野小学校教諭、畿央大学教育学部 現代教育学科講師・准教授を経て現職。「第32回 InSEA 国際美術教育学会世界大会 2008 in 大阪」組織委員会 事務局 財務局 副局長、日本教育美術連盟事務局長、美術科教育学会会員 <主要著書/論文>『新しい教育課程と学習活動の実践 図画工作科』東洋館出版、1999. 「造形の学びの連鎖を起こす導入時の教育的方略に関する研究」『美術科教育学会誌』26,2005. 『平成20年度告示学習指導要領による図画工作科指導法 理論と実践』日本文教出版、2009.

阪口 信哉 (SAKAGUCHI, Shinya) 葛城市立磐城小学校 教頭、1962年4月奈良県生まれ

<専門>西洋画 <職歴等>京都教育大学特修美術科(西洋画)、教育専攻科 卒業(嶋本 昭三氏、烏頭尾 精氏、竹内 博氏に師事)、京都教育大学附属桃山中学校講師、奈良県立奈良工業高等学校講師、奈良県中学校教諭(十津川村立折立中、香芝市立香芝中、葛城市立白鳳中)、奈良県教育委員会 学校教育課指導主事(美術)、奈良県葛城市立當麻小学校教頭を経て現職。奈図美研編集部 部長 <主要業績>奈良市青年作品展(市長賞)、奈良県展(奨励賞、市町村会長賞、市議会議長賞)、奈良県香芝市立旭が丘小学校校章デザイン、香芝市放送・視聴覚ビデオ教材(イラスト提供)、葛城市立白鳳中学校サッカー部ユニフォーム・エンブレムデザイン

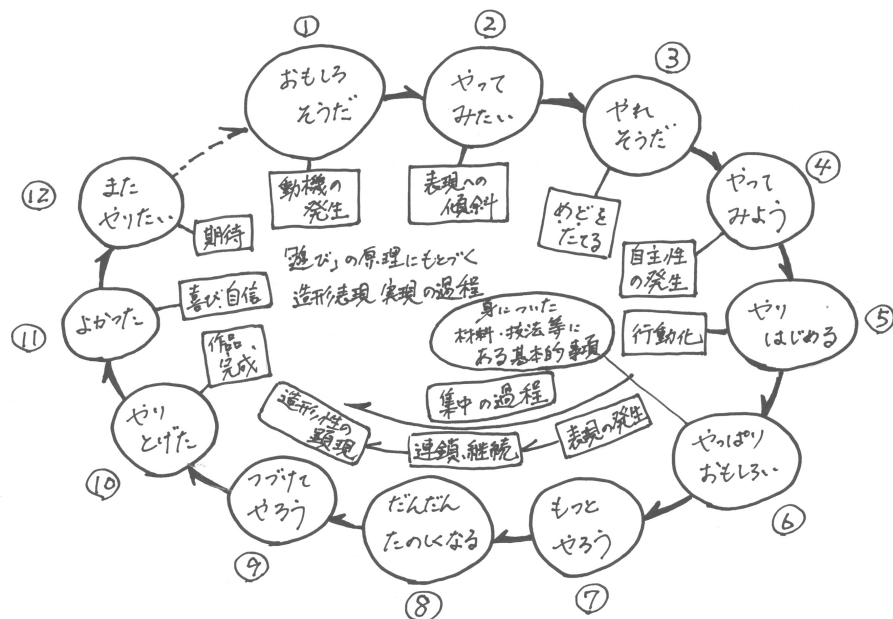


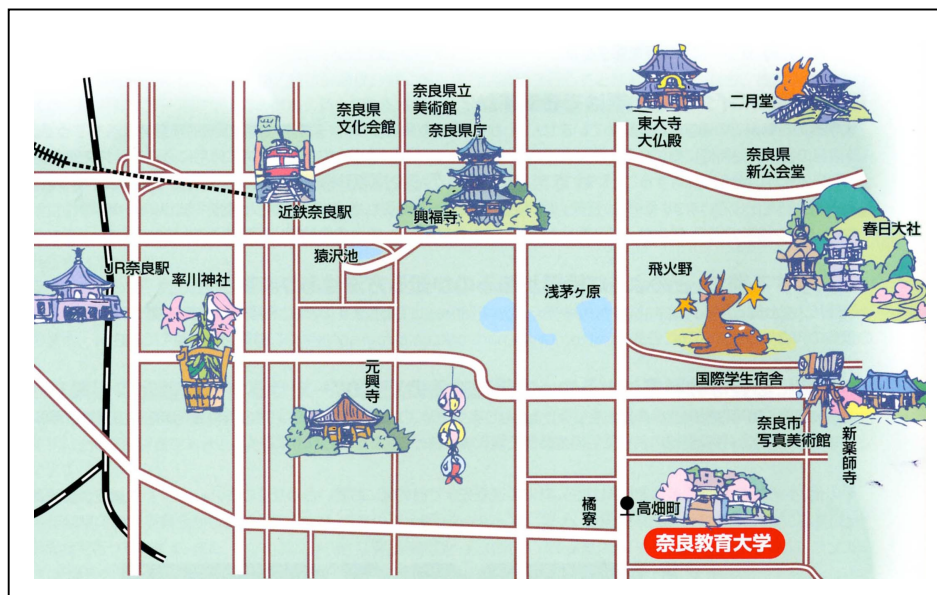
図1 「遊び」の原理にもとづく造形表現実現の過程

なお、本研究会の最新の内容については、以下の美術科教育学会ホームページで広報いたしますので、随時ご覧下さい。<http://www.artedu.jp/>

奈良市内

＜JR 奈良駅から＞ 奈良交通バス 2系統 市内循環線(外回り), 56 系統 山村町行, 57 系統 藤原台行などに乗車, 高畑町(たかばたけちょう)で下車(約 15 分).

＜近鉄奈良駅から＞ 奈良交通バス 2系統 市内循環線(外回り), 6系統 中循環線(外回り), 56系統 山村町行, 57系統 藤原台行などに乗車, 高畑町(たかばたけちょう)で下車(約10分),



奈良教育大学キャンパス地図

正門を入り 30m ほど進み左折、自動車用のゲートの横を通り、突き当たりを右折、緩いスロープを 100m ほど上って下さい。左手に教育実践総合センターがあります。ここが美術科教育学会「発祥の地」です。

